

保健指導部カルテの改訂

研究第3部	加藤 忠明	平山 宗宏
研究第4部	水野 清子	染谷 理絵
研究第5部	望月 武子	
保健指導部	高橋 悦二郎	佐藤 礼子
	松本 昌子	有山 千春
	田那村 由香	根岸 由紀子
愛育病院	鈴木 洋	岡本 暁

昭和33年9月に開設された愛育病院の保健指導部では愛育病院出生の乳幼児を6歳まで経過観察しており^{1,2)}その後、利用者は年毎に増え、昭和63年1年間の健診数は延べ10718名、予防接種のみ延べ2124名になった。この間、保健指導部の資料をもとに多くの研究がなされたが³⁾保健指導部カルテは昭和45年に改訂されたのみであった。昭和55年総合母子保健センター保健指導部となり、現在、現場のスタッフはほとんど入れ替わり、また、科学技術の進歩や母子の生活の変化とともに新しい知見も増えたので、以下の要領でカルテを改訂し平成元年4月より使用している。紙面の都合上、新しいカルテ内容は省略する。

カルテから直接コンピューター入力可能なように、また、一人一人を大事にした指導が行いやすいように作成した。従来のカルテを踏襲しながら、単なる問診チェックではなくカルテを見て母親に指導しやすいように、また、現場のスタッフの負担を少しでも減らすように、さらに、自由記述も可能なようにした。

従来のカルテ様式は各年月齢で多少相違がみられたのでそれを統一し、病名、既往歴、特記すべき点について一目みてわかるようにした。親子に対する保健指導を能率よく行えるように現症を余り細かく記載しないですむようにした。

親からの質問の多い栄養面、親子のかかわりに関する項目を追加した。また、親がカルテをみても心配しないですむように作成した。

フェースシートはほぼ従来通りにした。予防接種歴、発達歴、病歴、入院歴などを、一つのフェースシートにまとめて追加した。

以上のように作成したカルテに対して、経過観察している乳幼児のプライバシーの保護に配慮しながら、今後カルテ内容をコンピューターに入力、解析していく予定である。

参考資料

- 1) 愛育病院保健指導部：保健指導部のあゆみ。1973。
- 2) 愛育病院保健指導部：保健指導部のあゆみ（20周年記念号）1979。
- 3) 高橋悦二郎監修：乳幼児健診と保健指導。医歯薬出版。1988。
- 4) 加藤忠明、斎藤幸子：小児保健、保健指導に関する研究（前編）日本総合愛育研究所報Vol.4：1～28 1985。
- 5) 加藤忠明、斎藤幸子：小児保健、保健指導に関する研究（後編）日本総合愛育研究所報Vol.5：1～23 1986。